

特別招聘講演

『水戸藩校弘道館の医学館について』

弘道館事務所主任研究員
小坏的り子(こあくつ のりこ)

弘道館は、水戸藩9代藩主徳川斉昭が天保12年（1841）に藩政改革の一環として創設した藩校です。藩校としては日本最大規模を誇り、文館・武館をはじめ、医学館・天文台・調練場などが整備された総合的教育施設でした。斉昭は医学・医薬に高い関心をもち、医学館開設にも力を注いでいます。

今回は、当時大流行した痘瘡から領民を救うための種痘の実施など、医学館のさまざまな活動を紹介します。

【略歴】

同志社大学文学部文化学科卒業後、茨城県立歴史館に嘱託職員として勤務。その後、自治体史編纂に携わり、2005年から弘道館事務所に勤務。現在、水戸大使、水戸市立博物館協議会委員、水戸市都市景観審議会委員、常陸大宮市文化財保護審議会委員などを務める。

主な共著に『徳川斉昭と水戸弘道館』、『近世日本の学問・教育と水戸藩Ⅰ～Ⅲ』ほか